

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら 川崎幸教室		
○保護者評価実施期間	令和6年10月15日		～ 令和6年11月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	89	(回答者数) 78
○従業者評価実施期間	令和年10月15日		～ 令和6年11月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 21
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員間のコミュニケーションがとれていること	・職員間での情報共有を徹底し、誰が配置に入っても一人一人のこどもの近々の様子や特性、支援内容がわかるようにしている。毎回、支援する職員が違うため見方に偏りが無いよう、情報共有を行い日々の療育がステップアップしていけるよう配慮している。	・様々な方法で情報共有をしているが、より簡潔にわかりやすく共有できるようにしていく。また、一人の人の見方や先入観にとらわれないよう、日々職員間で情報共有や療育内容の振り返り、見直しをしより良い支援が行われるよう努めていく。
2	・プログラムや個別課題の充実化	・5領域について把握し、バランスよく組み込まれるよう考えている。一つのプログラムに対して様々な角度から支援できるよう意見を出し合い行っている。	・こどもの特性に合わせてどんなアプローチができるかをより深めていけるよう考えていく。 ・既存の物と新しいもののバランスをみながら組み込み学校や他事業所の療育も参考にしながら深めていく。
3	・2事業所が併設されているため、放デイへの移行がスムーズである	・移行にあたり、児発で使用していたものを使うなど安心して過ごせるよう配慮している。 ・児発、放デイの職員が合同でミーティングを行い情報の共有を行っている。	・個別プログラムや集団プログラムの見直しを行い事前準備や取り組みを行うことで不安なく移行できるよう配慮していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・専門職が不在であるため、参考文献での情報収集になってしまうことが多い。	・専門職の人員不足により配置が困難である	・他教室から専門職員の派遣や、勉強会などの開催により知識を深め、療育に反映させていく。
2	・クールダウンできる部屋や個別に使用できる部屋がない	・物理的に部屋が少なく常時使用は難しいが、必要な時には使用できるよう工夫している。	・できる範囲で仕切りを作成したり、空間を提供できるよう努めていく。
3			